

鈴木 はい。えーっと、じゃあ、始めたいと思います。

芦刈 はい。

鈴木 はい。えーっと、ちょっと、あの、前回、あの一、伺い、ちょっと、し、できなかつたこと、もう一回、確認したいんですけども。

芦刈 はい。

鈴木 はい。えーっと、あの、前回の海老原さんの映画上映会、2018年に行ったっていう話、聞いたんですけども。

芦刈 はい、はい。

鈴木 あの一、重度訪問介護のヘルパーって、その後、利用するようになったっていう理解でよろしいですよ。

芦刈 いや、重度訪問はその前から使ってるかな。

鈴木 海老原さんの前ですかね。

芦刈 うん、制度が始まって。

鈴木 はい。

芦刈 結構すぐぐらいだったっけな。

鈴木 あの一、恐らく2018年に重訪のヘルパーって始まっていると思うんですね。

芦刈 うん。

鈴木 で、海老原さんの上映会も確か2018年だったと思うんですけど。

芦刈 うん。

鈴木 そ、その辺りどっちが最初かってのは、覚えてらっしゃいますか。

芦刈 海老原さんの上映会は、あれはいつだったかな、8月やったか。なんか、あのときはもう既に、なんか利用してたような気がする。

鈴木 あ、あのときは利用してましたか。

芦刈 うん。

鈴木 ああ、はあはあ。じゃあ、重訪のヘルパーを利用した後に、海老原さんの上映会を2018の8月ぐらいにやったってことなんですね。

芦刈 ええ、え、え、ええ。

鈴木 あ、あ、分かりました、はいはい。あとは、あの一、えっと、なんですかね、その、介助者の研修って今、Zoomでやってると思うんですけど。

芦刈 はい。

鈴木 あの、本来ならばどこでやりたかったのかっていうこと、ちょっとお伺いしたいんですけども。

芦刈 ああ。一応あそこの・・・。

鈴木 あの、つ、ええ、あの、自立生活体験室ってのがああるじゃないですか。

芦刈 はいはい。

鈴木 そこで行いたかったのか、それとも、あの、新しく引っ越しをする、芦刈さんのご自宅っていうか、そのマンションの、じゅ、自宅でやりたかったのかって。ど、どちらでやりたかったと思いますか。

芦刈 一応、体験室でやるつもりだったんですけど。

鈴木 あ、はいはいはい。そ、そういう形のほうがいいですか。つまり新しく移る場所じゃなくて体験室でやるっていう形のほうが、芦刈さんにとって望ましいと思います？

芦刈 そうですね。ただ、その新しい建物が出来上がってなかったの、うん。でも、早くやれたほうが研修は、そのほうが、い、いいので。1カ月前ぐらい、ちょうど出来上がったので、部屋でするのはちょっと無理かなと思って、うん。じゃあ、体験室で取りあえずやって、一回、泊まってとか、やりたかったんですけどね。

鈴木 なるほどね。あの一、何ていうんですかね、その一、えっと、その、別の場所で体験して、で、新しい住宅に移るっていう、こ、ことで全然、構わないってことなんですね。

芦刈 あ、うん、介助のやり方さえ覚えてもらえれば。

鈴木 あ、はあはあ。

芦刈 まあ、そんなに多分、うん、あの一、広さは多少ある、ありますけど、あんまり介助には関係ないかなと思って。

鈴木 なるほどなるほど。

芦刈 うん。

鈴木 あの一、何ていうんですかね、その一、引っ越しをする、その、あの一、じゅう、住居でね、あの一、その一、じ、事前に練習したほうがいいのか、それとも、何かもう別の体験室みたいな所で練習したほうがいいのかっていうふうに考えた場合に、まあ、芦刈さんは特にどちらでもいいっていう感じなんですかね。

芦刈 そうですね。まあ、部屋でできるのが一番です。

鈴木 あ、部屋で、自分の。

芦刈 うん、うん。べ、ベッドとか、そろってればいいですけど。

鈴木 あ一、なるほどね。

芦刈 うん。そういうの、そろってないと、ちょっと、やるのは難しいかな。

鈴木 ああ、もし、あの、そろってるとしたら、その新しい住宅でやったほうがいいのかと思いますか。

芦刈 まあ、できるんだったらそっちのほうが。

鈴木 ふんふんふんふん。

芦刈 うん、うん。

鈴木 なんか、あの一、要するに、せん、自立生活センターの、い、あの、方法っていうのは、その一、新しい住宅にいきなり引っ越すんじゃなくて、なんか、その手前でなんか、体験室みたいな所で体験してから引っ越しをするっていう形なんですね。それで・・・。

芦刈 大体そういう所、多いですね。

鈴木 そうですよ。そういう形のほうがいいのか、それとも、もういきなり、いきなりっていうか、その一、新しい住宅で体験をして、で、それでそのまま引っ越しをするほうがいいのかって、どう思いますか。

芦刈 僕は、あの一、2回引っ越しするほうが面倒くさいなと思って。また一から覚えんといけんけ。あの一、去年、秋田で(#####@00:04:55)は体験室に3カ月ぐらい住んで。それから、あの一、家を探してだったんで。まあ、自分が住む所は自分で探すっていう楽しみは、もちろんあるかなと思いますけど。引っ越しを考えると2回はちょっときついなと思って、うん。

鈴木 なるほど。じゃあ、今後、た、あの、例えば、ん、これから、こう、退院をする人が、こう、ん、あの、希望者が出た場合に、その、2回引っ越しするんじゃなくて、新しい住宅で体験できるような形もあったほうがいいんじゃないかっていうふうに、芦刈さんは思うってことですね。

芦刈 ああ、まあ、その人の考え方にもよると思うんですけど。

鈴木 ああ、なるほどね。

芦刈 引っ越し、何回もするのは大変っていう人は、うん。も、す、住む所が決まればそこでやってもいいかなと思うんですけど。

鈴木 なるほどね。で、芦刈さんの・・・。

芦刈 で、うん、そっち行く前に、ヘルパーも介助を完璧に覚えてもらって、行くほうがいいって言う人もいるかもしれないんで。それはもう本人の意思かなと思うんですけど。

鈴木 なるほどなるほど。で、芦刈さんご本人は2回引っ越しするよりも。

芦刈 うん。

鈴木 1回で済むんだったら、1回で、す、済ませたほうが良いと思って。

芦刈 そうですね、はい。

鈴木 なるほどね、ああ、はい、分かりました、ありがとうございます。

芦刈 連携はちょっと違う所で体験はしてて。

鈴木 うん。

芦刈 実際、引っ越しは1回で終わりたいなど。

鈴木 うん、ふんふんふんふんふんふん。じゃあ、実際、こう、何ていう、新しい住宅で、その介助者の、こう、何ていうか、体験とかも、や、やってもいいんじゃないかっていうことなんですよ。

芦刈 うん、そうですね。

鈴木 ああ、はあ、はあはあ。はいはい。で、あとは、あの一、今回、あの、Zoomで、あの一、押切さんといろいろ、こう、あの一、ILP やったと思うんですけど。

芦刈 はい。

鈴木 お部屋でやってらっしゃるわけですよ。

芦刈 あ、い、体験室ですね。

鈴木 ああ、ごめんなさい、あの、芦刈さんご自身は。

芦刈 僕は自分のここで、病院で。

鈴木 ここ、そうですよね。それはどう思われました？ つまり、あの、声とか音とか気にならなかったですか、周りの。

芦刈 ああ、あんまり気にはしてないですね。

鈴木 ああ、そうですか。

芦刈 うちの部屋はみんな別に何も、うん、そこまで気にしないって感じなんで。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 じゃあ、病院の他の場所でやったほうがよかったとか、そういう、こ、ことはないってことですね。ず、Zoomを。

芦刈 ああ、まあ、確かにできないよね。

鈴木 うんうん。

芦刈 できれば、人がいないほうがしゃべりやすいですけど。

鈴木 ああ。し……。

芦刈 それだと途中でナースが来たりとかするし、うん。ちょっと話しづらいこともあるのはあるんですけど。

鈴木 うん。その、びょう……。

芦刈 今の時間帯って結構、来ないので、うん。だからこの時間帯、いつもいろいろ、会議とかも入れてもらってるんですけど、うん。

鈴木 あ、今の時間帯はナースがあんまり来ない時間帯なんですね。

芦刈 ああ、まあ、き、き、休憩入ってる人が多いんで。

鈴木 はあ。

芦刈 うん。と、まあ、この時間、処置もないので。

鈴木 はいはいはいはい。

芦刈 そやけん、逆に午前中とかはちょっと、人がいっぱいおって厳しいかなと思ってね、うん。結構、午前中について言われるんですけど、ここはちょっと午前中は動きにくいので、午後からにしてもらってます。

鈴木 き、き、休憩っていうのは何時から何時まで、ナースは休憩されるんですか。

芦刈 あの一、食事介助があるんで。

鈴木 はい。

芦刈 あの一、先に休憩行く人か、後、休憩の人、休憩する人は分かれてて、まあ、1時間くらいですかね。1時間、うん、1時間15分ぐらいかな。11時半から入って、まあ45分ぐらいに、準備を(#####@00:09:00)でできて。(#####@00:09:01)交代で、これまた2時半から(#####@00:09:04)っていう感じです。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 11時45分？

芦刈 いや、11時半に入って。

鈴木 はい。

芦刈 で、12時45分に出てくる感じ。最初の休憩の人。

鈴木 あ、最初の休憩の人が 45 分に出てくる。

芦刈 うん、12 時 45 分。

鈴木 ああ、はあはあはあ、なるほどね、そういうことですか。

芦刈 1 時間 15 分かな、うん。

鈴木 ああ、はあはあはあ。じゃあ、割りかし今の時間帯ってのは、休憩に入ってる人がいらっしゃるっていう。

芦刈 そうですね。

鈴木 はいはいはい、なるほど。じゃあ、そういうことも考えながら、あの一、こういう Zoom をやる時間っていうのを設定してるってことなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 はあ。あ、もしこれ可能だったら、やっぱり病棟の、なんかそういう特別な部屋で Zoom とかやったほうがよかったと思いますか。

芦刈 いや、でも 1 人で手挙げたりとかできないんで。そこに人呼んでとか絶対、無理な、無理なんで。部屋なら部屋で着替えたり、ちょっとマウス持たせてって、い、言えるんですけど。

鈴木 あ、な、何て言うんですか。

芦刈 いや、マウス、マウスを、も、持たせてください。

鈴木 あ、はあはあ、マウスをね。

芦刈 うん。で、あとは 1 人でいたら怖いんで、もし呼吸器とか抜けたら。

鈴木 なるほど。

芦刈 そこだと誰がいるんで、コール押してもらったりできるので。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ、なるほどね。

芦刈 あ、一応、パソコン室ってあるんですけど。

鈴木 はいはい。

芦刈 (****ウィザー@00:10:35)が目が届かないんで、あっこでもウィザーやってないですね。

鈴木 あ、他の人の目が届かないんですね。

芦刈 うん、職員の。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ。

芦刈 全くあそこは人は通らない所なんで。

鈴木 あ、ナースが通らない所にあるんですか。

芦刈 はい、うん。

鈴木 へえ。

芦刈 今の病棟やないんですけど、前の病棟で、その、パソコン室に朝、1人でいて。

鈴木 はい。

芦刈 で、亡くなった人とかいるんです。

鈴木 なん、どういう理由でですか。

芦刈 あの、首が後ろに倒れたみたいで。

鈴木 はい。

芦刈 そこからバランス崩して。

鈴木 はあ。

芦刈 で、人が少ない時間帯で。

鈴木 はい。

芦刈 ちょうど誰も、うん、目が届かない時間帯で。

鈴木 はい。

芦刈 何分たってたか分からなくて、意識がなくて。

鈴木 なるほど。

芦刈 で、そのまま1カ月ぐらい意識ないままで。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。そういう事故もあったんで、そこでやっぱり、やるのはあまり良くないってことで。

鈴木 なるほど、それいつの話ですか。

芦刈 それ、もうだいぶ前ですね。

鈴木 ああ、なるほどね。

芦刈 10年近くなると思う。

鈴木 10年近くなる、はあ。あの一、何ていうんですかね、その、例えば付き添いの人が、こう、常に、こう、いるような形であれば、その、他の病室っていうほうがいいんですかね。

芦刈 そうですね。その、誰かがいてくれれば。

鈴木 はい。

芦刈 そのほうが、人がおらん所がしゃべりやすいですね。

鈴木 うん。やっぱりあれですか、その、今、4 人部屋にいらっしゃると思うんですけど、なんかしゃべりにくい部分もあるってことなんですか。

芦刈 いや、ちょっと病院のことを話すときとか、いろいろ聞かれたときに。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 ちょっと話しづらいな。

鈴木 ああ、はあはあはあ、なるほどね。あの一、時間数的にはどうでしたか。いろいろ、こう、ILP を押切さんたちとやってきましたけど、十分な時間やれたと思いますか。

芦刈 まあ、やれるだけはやれたかなと思いますね。

鈴木 ああ。

芦刈 それ以上、多分やりようがないし。

鈴木 なるほど。

芦刈 うん。

鈴木 うん。まあ、やれる範囲のことはやれたかなっていう、そんな感じなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ、はあ。で、やらなかったよりはもう全然、やったほうがよかったってことなんですよ。

芦刈 それは多分そうだと思うんですけど。

鈴木 はいはい。

芦刈 まあ、あの一、ヘルパーさん(#####@00:13:03)おもうか分かんないですけど。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ。

芦刈 うん。だから、まあ、イメージ少しでもあったほうが。

鈴木 なるほど。

芦刈 いいって思うんで。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ。で、あの、ちょっと、あの一、ちょっと話しづらいのかも
しれませんが、ちょ、病院のこと、ちょっとお話聞きたいなと思ってるんですけど。

芦刈 はい、いいですよ、はい。

鈴木 あの一、今、あの、筋ジストロフィー病棟でよろしいんですよね。か、あの一、芦刈
さんいらっしゃる所って。

芦刈 あ、今は、あの、療養介護病棟。

鈴木 療養介護病棟。

芦刈 ここ筋ジスだけじゃないんで。

鈴木 はい。

芦刈 療養介護の人たちが入ってるんで。

鈴木 それはいつ・・・。

芦刈 (#####@00:13:45)、うん。

鈴木 いつからそういう名称に変わったんですか。

芦刈 いつからかな。もう結構になると思うんですけどね。

鈴木 へえ。

芦刈 こう、全然、筋ジス病棟じゃなくなっちゃったんで。

鈴木 結構なるっていうのは、もう、高校卒業した辺りぐらいからなったってことですか。

芦刈 いやいや、そんなに古くはないですよ。

鈴木 ああ。

芦刈 13年ぐらいかな。この新しく病棟、新しく病棟になって。

鈴木 はい。

芦刈 9年ぐらいになるんですけど。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 (#####@00:14:21)出たので。

鈴木 はい。

芦刈 じゅ、15年ぐらいになるのかな。

鈴木 15年ね。え、ごめんなさい、新しい病棟になったのが9年前ということは、い、えっと、2000、えっと、あ、ごめんなさい、2012とかですか。

芦刈 そうですね、それぐらい。あの一、真向かいの病棟に5階建てができたんです。

鈴木 はいはいはいはい。

芦刈 僕たちがいた病棟、1階だけだったんですけど。

鈴木 あ、そうですか。

芦刈 そこに筋ジスの重心病棟が三つあったんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 それを統合して3、4階は重心病棟で。

鈴木 はい。

芦刈 で、1、2階は、まあ、筋ジスの人が主なんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 重心の患者さんが入れない、入り切れなかった人が。

鈴木 はい。

芦刈 1階と2階に振り分けられて。

鈴木 はいはい。

芦刈 まあ、い、5階がもう一般病棟で。で、し、下の階が空いたら、その、順番待ちでどうぞ、ベッド空いたら入ってく、下りてくれてたんで。5階もちょっとだけ療養介護の人が交ざってて。あそこちょっと一般病棟と医療介護、交ざってややこしいんですけど、うん。

鈴木 今のその5階の話ってというのは、あ、あの、新しい病棟の話ですよ。

芦刈 そうそう、そうです。

鈴木 はいはい。

芦刈 それだけなってたから。

鈴木 その前って、ごめんなさい、その前は1階建てだったんですか、筋ジス病棟って。

芦刈 いや、二つあって。

鈴木 はい。

芦刈 あのー、う、うちと、僕は、あの、き、昔、北2病棟って言ってたんですけど。

鈴木 北第2？

芦刈 や、うん、北2病棟。

鈴木 北2病棟。

芦刈 で、もう一個は北3病棟って真向かいにあって。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 その北3病棟のあった所を壊して、5階建てを。

鈴木 はい。

芦刈 で、あの、そのときに、患者数が40床だったのが50床になったんです。

鈴木 えっと、ごめんなさい、繰り返しますと、北2病棟っていう所と北3があって。で、芦刈さんは北の2にいた、らし、いたっていうことですか。

芦刈 そうです、はい。

鈴木 で、北3っていうものを壊して、そこに5階を建てたってことですか。

芦刈 はい、そうです。

鈴木 はあ。で、その北2と北3を合わせて40床だったんですか、これま、今までは。

芦刈 いや、あのー、各40床で80床かな。

鈴木 ああ。

芦刈 それが100床になったかな。

鈴木 なるほど。

芦刈 今ちょっと増えてるけど。

鈴木 はいはいはいはいはい、そういうことですか。

芦刈 で、僕たちの病棟っていわば新しくて。

鈴木 はい。

芦刈 実は建って多分、8年ぐらいだったんですけど。

鈴木 北2ですね。

芦刈 はい。

鈴木 はいはい。

芦刈 すごい収納もいっぱいあって、思ったよりはすごい、かい、快適だったんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 いや、まあ、ちょっと狭くなって。収納もほとんど、うん、1個チェストをもらって、それに入れる感じなんで。

鈴木 え、何がですか。

芦刈 ちえ、チェスト、あの、引き出し。

鈴木 ああ、チェストね、はいはいはい。

芦刈 うん、あの、病院が支給したやつに。

鈴木 はいはい。

芦刈 前は、その一、風呂場の前に服とか入れるロッカーがあつて。

鈴木 はい。

芦刈 そこに服入れてたんで。荷物を結構、自分の所に入れたんですけど、服も入れないといけなくなったんで。僕たちにとってね、10床、う、増えたので。僕たちにとってあんまりいい移転ではなかったかな。

鈴木 えっと、ごめんなさい。もう一度、繰り返すと、北、最初、芦刈さんが入られたときに北2っていう病棟に入られてるわけですよ。

芦刈 いや、最初、入院した頃まだ小児科だったんで。

鈴木 ああ。

芦刈 小児科2病棟でした。あの一、1病棟から7病棟まであつて、小児科が。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 で、1階が、あの一、あ、い、1がぜんそくで2、3が筋ジスで、で、4、5、6が、あの一、重心で、だから、あの、内臓疾患の人、慢性疾患。で、そうやって分かれてたんですよ、うん。

鈴木 で、それが小児科病棟で。で、その後、今おっしゃってた北2っていう所に移ったのって何歳のときなんですか。

芦刈 それはだから、なんやろう、16年前ぐらいやけ、30、30ぐらいかな。

鈴木 30歳のとき？

芦刈 うん、ぐらい。

鈴木 あ、え、じゃあ、逆に言うと、30歳ぐらいまで小児科病棟にいらっしゃったってことなんですか。

芦刈 そうですね、うん。

鈴木 あ、う、うう、つまり。

芦刈 あ、その間に、いや、そんなことはないか。いや、違う、多分そうだと思います。

鈴木 なんか小児科病棟って、し、小児っていうぐらいだから子どもたちがいるってイメージあるんですけど、そう、そうじゃなくて。

芦刈 うん、最初は子どもたちばかりでしたけど。

鈴木 はいはい。

芦刈 筋ジスばかりなんで。

鈴木 はいはい。

芦刈 だんだん、だんだん年齢上がって、あんまり入院してくる人も、い、いなくなっていくってたんでね。(###@00:19:52)、もう、あの、学生だからって、今、うち、1人しかいない、中学生が。

鈴木 で、それ……。

芦刈 僕たちん頃はいっぱいおったんですけどね、うん。

鈴木 で、それで芦刈さん、18歳を過ぎても、その小児科病棟にいらっしゃって。

芦刈 うん。

鈴木 30歳までいたってことなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 ほえ。

芦刈 なんつうか、その、前後はあるかもしれないですね。記憶が定かじゃないので。

鈴木 あ、はいはいはい。ああ、わ、わ、分かりました、はい。で、それで30歳ぐらいで北2に移って、で、北2・・・。

芦刈 移ってっていうか、あの一、もともといた病棟壊して、そこに新しく建てた感じ。

鈴木 あ、北2を建てたんですね。

芦刈 はい。

鈴木 はあはあ。で、30歳ぐらいのときから北2に住むようになって。

芦刈 はい。

鈴木 で、い、今は？ え、今は北2ではないわけですよ。

芦刈 今は東1病棟になります。

鈴木 ひ、東1病棟。つまり・・・。

芦刈 あの、5階に、し、集約して東病棟に。

鈴木 ああ。

芦刈 振られたので。

鈴木 そうですね。つまり北3を壊して東っていう名前の病棟に変わったんですよ。

芦刈 そうそう。5階建ての。

鈴木 5階建てのね。で、芦刈さんは今、1階のほうにいるんですか。

芦刈 はい、1階にいます。

鈴木 あ、1階にいるんですね、なるほど。で、それ、えっと、壊して東病棟になったのが2012年ですよ。

芦刈 はい。

鈴木 ああ、はあはあ、ん、なるほど。で、えっと、さっき、なんかおっしゃってたのが、えー、ごめんなさい、僕たちにとって移転は望ましくなかったって、もう一回ちょっと教えていただきたい。何が問題だったんですしたっけ。

芦刈 いや、その、収納が。

鈴木 ええ。

芦刈 少ないのと。

鈴木 はい。

芦刈 40床、か、から50床になったこと。

鈴木 ああ、なるほど、そういうことですか。

芦刈 あの一、お風呂場も広くて良かったんですよ。

鈴木 北2ですね。

芦刈 はい。

鈴木 はあはあはあ。

芦刈 (###@00:21:48)、マイナーチェンジで。

鈴木 はいはい。

芦刈 だから移りたくないよねみたいな話してて。

鈴木 ああ。

芦刈 うん、そうだね。

鈴木 え、その一、ごめんなさい、えっと、移らない人たちもいるって、い、ことなんですか。北2ってまだ残ってる？

芦刈 いや、ないない、もうないです。

鈴木 もうないですよ。

芦刈 うん。

鈴木 ああ、はあ。じゃあ、その、つ……。

芦刈 もう残るとかいう選択肢はないです。

鈴木 ああ、分かった。

芦刈 それなら退院してください、になると。

鈴木 ああ。そのなんか、あれですか。それに対してなんか抗議したとか、なんか言ったってことはないんですね？

芦刈 ああ、もうどうしようもないんですよ、病院の方針なんで。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 でも、その北3病棟の人たちは。

鈴木 はい。

芦刈 建物がちょっと古くて。

鈴木 ああ。

芦刈 新しくなって喜んでましたけど。

鈴木 なるほどなるほど。じゃあ、き……。

芦刈 まあ、うちだけずるいって言われてたんで。

鈴木 アハハハ。

芦刈 統一されたので、まあ、北、北3の人は喜んでましたね。

鈴木 ふーん。じゃあ、ここの移転っていうのは、い、あ、結局あれですか。じゃあ、あの一、ふ、建物が古くなって、それで建て替え、し、せざるを得なかった？

芦刈 それもあるし、なんか、今、造ったら、こう、補助金、出しますって国が言ったのに乗ったみたいで、うん。

鈴木 やっぱりその頃ってあれですかね。2012年ですよ。宇多野病院が、確か2011年かだったと思うんですけど、結構あれですか。

芦刈 ああ、なんか一斉になんかありましたね。

鈴木 ふーん、なるほどね。

芦刈 改築みたいなの。

鈴木 改築をする時期だったんですね。

芦刈 あ、うん。

鈴木 なるほど。

芦刈 そういう方針だったのかな。

鈴木 ああ、なるどね。で、えっと、ちょっと、あの、その病棟の話、もう一回ちょっと聞きたいんですけど。

芦刈 はい。

鈴木 あの一、その小児科病棟だったときの、あの、筋ジス病棟って、2、えっと、2と3ですよ？ 筋ジスは。

芦刈 はい、はい。

鈴木 それって何人、こ、あの、いらっしゃったんですか、筋ジスの患者さんって。

芦刈 まあ、小児科の頃はもうほとんど筋ジスだったんじゃないかな。筋ジス以外の方がほとんどいなかったと思うんですけど。

鈴木 よ、40人ですか。

芦刈 ですね。

鈴木 はあ。

芦刈 あんまり他の病気の方は聞かなかった。

鈴木 ああ、つまり2のほうだけで40？

芦刈 そうですね。

鈴木 で、3も40いて、合わせて80？

芦刈 そうです。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ。

芦刈 で、あの一、北3のほうか。

鈴木 はい。

芦刈 要は、その、ここは女性が多いんです。

鈴木 へえ。

芦刈 なんか必然的に男性は2病棟で、女性は3病棟みたいなの。

鈴木 はいはいはいはいはい。

芦刈 最初、僕、入ったとき、女性は2人しかいなかった。

鈴木 つまり小児病棟のとき、2人しかいなかった。

芦刈 今は10人ちょ、今で、もう10人ちょっといますけど、割合ってのはやっぱり。

鈴木 あ、つまり小児病棟に、あの、芦刈さん入られたのは、だから、小学生の4年生のときですよ。

芦刈 あ、そうです、うん。

鈴木 で、そのときに、えっと、えっと、2、ん、えっと、2、2棟っていうんですか、これ、えっと、た、小児病棟の2、2っていうんですかね。

芦刈 うん。

鈴木 そこにいらっしゃったわけですよ。

芦刈 はい。

鈴木 で、40人のうち2人ぐらいが女の子だったってことですか。

芦刈 うん、そうですね。

鈴木 ああ、そうなんですね。で、す、えっと、3のほうもそんな感じでしたか。

芦刈 3は女性のほうが多い。

鈴木 あ、そういう、さ、あ、3ってその意味ですか。小児病棟の3のほうが女性が多かったってことなんですね。

芦刈 うん、なんかそういうふうに分かれてましたね。

鈴木 え、多いっていうのは8割とか9割女性だったってことですか。

芦刈 まあ、7割ぐらい。

鈴木 7割ぐらい女性、ああ。

芦刈 比較的、うちは割合みたいに多くはないですけど。

鈴木 うーん。

芦刈 うん。でもやっぱり女性が多い感じ。

鈴木 ああ、なるほどね。で、えっと、それが、えっと、まあ、い、全部、全部合わせて80人ぐらいいて。で、その後、30歳ぐらいのときに、あの、北2ってっていう所に、えっと、芦刈さんが行かれて。それは40人ぐらいいらっしゃるわけですよ、またそこにね。

芦刈 まあ、そこも40人です、うん。

鈴木 で、そのときの割合っていうか女性は、い、何人ぐらいいらしゃったんですか。

芦刈 女性は、そのときは5、に、5人もいたかな。

鈴木 まあ、5・・・。

芦刈 5人か6人ぐらい。

鈴木 ああ、そんなもんなんですね。じゅ、じゃあ北3はどうでしたか。

芦刈 あー、よく分からないですけど、まあ、あんまり変わらなかったと思います。

鈴木 えっと、女性の、ほ、ほ。

芦刈 うん、小児科のときの(#####@00:26:43)。

鈴木 あ、7割ぐらいなんですね。

芦刈 はい。

鈴木 じゃあそのまま、きは、基本的に小児科の2と3が、北の2と3に、こう、上がって
いくような感じっていうイメージですか。

芦刈 いや、あの一、2と3は1階にあって、真向かいがあっただけで。今が、その一、北
2が1階になって。

鈴木 はい。

芦刈 北3が2階になった。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 その、しょう・・・。

芦刈 だから上に上がった感じです。

鈴木 小児科病棟と北2と北3っていうのは、建物は別なんですよ。

芦刈 いや、場所是一緒でした。

鈴木 場所是一緒な、あ、ば、場所。

芦刈 小児科と。

鈴木 はいはい。

芦刈 あと北2は一緒ですね。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 でも、こう、階は別なんですか。

芦刈 階も一緒です。

鈴木 階が一緒、でも。

芦刈 あのー、うん、小児科と北のときは。

鈴木 ああ。でも・・・。

芦刈 今は一緒です。東、東の5く、5階に集約されてる。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ。

芦刈 うん。

鈴木 なるほどね。じゃあ、あの、小児科病棟の2にいて、30歳頃に北の2っていう、う、まあ、い、移ったっていっても、建物、同じ所に。

芦刈 建物、うん、壊して、新しく建てた感じ。同じ場所に。

鈴木 ああ、なるほど、そういうことですか。

芦刈 うん、うん。

鈴木 ふんふんふんふん、じゃあ、小児科病棟っていうのは、かつてのやつは、もうないってことなんですね。

芦刈 もう、ないです。

鈴木 ふんふんふん。

芦刈 跡形もないです。

鈴木 跡形もなくなってる。

芦刈 うん。

鈴木 じゃあ、そこに北と2、2と北の3が建ったってことなんですね、その後。

芦刈 そうですね、うん。

鈴木 ふんふんふん、で。

芦刈 最初は、た、建て替えなくて。

鈴木 ええ。

芦刈 さい、最初の改装できたんで、病棟が古いって話で。

鈴木 ああ、そういうことですか、なるほどね。

芦刈 うちと比べられてたんで。

鈴木 ああ。で、その後に北3壊して5階建てになって、芦刈さんは、あの一、1階のほうに移って。

芦刈 はい。

鈴木 で、そこに、えっと、そこに40名ぐらいいる、あ、が、50名か。

芦刈 はい。

鈴木 50名ですよ。

芦刈 うん、うん。で、また今、工事が入ってて。

鈴木 はい。

芦刈 6棟が横に、うちの1階くっ付いて、横に3階建てができるみたいで。

鈴木 え、それはなんの建物ですか。

芦刈 それ、あの一、今、こっちを北、東病棟と、前の古い病棟があつて。

鈴木 はい。

芦刈 その一、結核の人と。

鈴木 はいはい。

芦刈 昔、(****ショウナラ@00:29:17)って呼んでた、あの、慢性の。

鈴木 慢性の。

芦刈 うん、人たちに入って。子どもたちがお、いたりとか。

鈴木 はいはい。

芦刈 一般の在宅の人とかがちょっと入ったりとか。

鈴木 はい。

芦刈 そういう病棟が、よ、4階と2階にあるんです。

鈴木 はいはい。

芦刈 うん。それで、すごいもう古いんで。

鈴木 はい。

芦刈 そこをちょっとこっち側に集約するみたいな感じで。

鈴木 はあ。

芦刈 で、ちょっと病棟の編成もあるみたいで。

鈴木 はい。

芦刈 職員とか患者もちょっと一部、入れ替えがあるのかもしれない。

鈴木 なるほどなるほど。

芦刈 ちょっとなんか病棟数が減るって話で。

鈴木 へえ。

芦刈 びよ、病床がなんか減るとかいう話で。

鈴木 はあはあはあはあ。

芦刈 僕が、その、在宅で、もし具合悪いときに。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 うん、かえ、帰らしてもらったら、病床が少なくて帰れないときもあるんで、それは、すみませんって言われました。

鈴木 あ、あ、そうですか。あの、は、その、在宅から、も、ん、万が一のときのために、入らせてくださいって言ったんですね。

芦刈 うん。

鈴木 でも、駄目だと。

芦刈 ああ、駄目ではないんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 空いてればいいんやけど。

鈴木 ああ。

芦刈 空いてなかったら、ちょっともう、他の病院に行ってください、みたいな。

鈴木 ああ、なるほど。

芦刈 で、まあ、うち平日の昼間しか対応してないんで。

鈴木 なるほど。

芦刈 夜間とか、へ、土日とかは受け入れがないので。

鈴木 ああ、そもそもね。

芦刈 いったん、どっか違う病院に移って。

鈴木 はい。

芦刈 そこからこっちに、あの、転院っていうのがあるのかもしれない。

鈴木 ああ。あ、ちなみに、あの、ごめんなさい。芦刈さん、退院された後ってどこの病院に、ん、例えば入院する場合ってどこの病院って、決めてらっしゃるんですか。

芦刈 一応、もう、あの、緊急搬送される病院がどこになるか分からんって言われてて。

鈴木 はい。

芦刈 うん。その運ばれた所に、そのときに空いてる所によりますね。

鈴木 ああ。

芦刈 近くで、まあ、救急病院はあるんですけど、まあ、どこになるか。3カ所ぐらいあるんで。

鈴木 なるほど。

芦刈 ただ、この筋ジスとかの扱いには慣れてない所なんで。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。だから結構、すごい、西別府に行ってくださいって言われたりするみたいです。

鈴木 でも夜間対応してないんですよね、西別府って。

芦刈 ていうのは対応してないんで、まあ、そこで、救急病院でどうにかしてもらうしかないって感じ。

鈴木 ああ、それは、でも心配じゃないですか。

芦刈 まあ、心配なんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 こう、そればかりはどうしようもないので。

鈴木 うん、なるほどね。あの、ちなみに主治医はもう決めてらっしゃるんですか、在宅だった場合に。

芦刈 一応、あの、西別府病院に1カ月に1回受診する予定で。あの、呼吸器の管理が西別府病院になるんですね。そうすると月1回、受診しないといけないみたいで。訪問員の人が呼吸器管理はやってないので、うん。そやけ月1回は来ないといけない。

鈴木 つまり主治医・・・。

芦刈 今。

鈴木 うん。

芦刈 今の主治医の先生にお願いしてます、はい。

鈴木 それは、じゃあ、あの、その部分は、まあ、そ、し、安心してらるってことですか。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ、はあはあ。

芦刈 全然、その、外来で受診するのは全然。

鈴木 うん。

芦刈 外来なので。

鈴木 つ、あ、例えば緊急時のその呼吸器の管理ってのはどうされるんですか。

芦刈 は、もう一応、24時間体制で呼吸器のメーカーが。

鈴木 あ。

芦刈 対応してくれる。あの一、不具合があったら代替機を持ってきてくれて。それはもう24時間いつでも電話対応してくれるんで、その心配は多分、大丈夫だと思う。

鈴木 それはメーカーなんですか。

芦刈 まあ、メーカーというか、め、その呼吸器を、まあ、取り扱ってる業者っていうか。

鈴木 ああ、福祉機器の業者なんですね。

芦刈 はい。

鈴木 じゃあ、そこについての安心感はあるってことなんですか。

芦刈 そうです、そこは大丈夫、はい。

鈴木 ふんふんふんふん。あ、ということはあれですね、芦刈さん、退院された後も西別府病院との関係は継続していくような感じなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 はあはあ。

芦刈 はい。

鈴木 じゃあそういった意味でも、まあ、何ていうんですかね、あの一、まあ、主治医の方はすごく、まあ、積極的だと思うんですけど、やっぱり病院との関係って、すごくやっぱり芦刈さんにとっても大事だっていうことなんですね。

芦刈 そうですね、うん。

鈴木 時々、あの一、なんか病院とけんか別れして退院するっていう方、いらっしゃるんですけど。

芦刈 うーん、えっと、ドクターとの関係はいいですけど。

鈴木 ああ、はあ。

芦刈 あんまり、その、連携室とのあれが良くないんで。

鈴木 うーん。

芦刈 なんか、あの一、ややこしいんですよ。その一、療養介護なんで、退院とか支援(#####@00:34:22)くて。(#####@00:34:26)関わってて、連携室はちょっと、まあ、ちょっと、うし、一歩下がったところって感じで。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 結構、厳しいこといろいろ言われて。

鈴木 うん。

芦刈 改善、いろいろしてるんですけど、なんか、お、私たち言うことは聞かないみたいに思ってるみたいで。

鈴木 私たちの言うことを聞かない？

芦刈 うん、(#####@00:34:51)、いろいろ、あの、厳しいアドバイスをもらったりして。

鈴木 わ、私たちの言うことって、ごめんなさい、えっと、誰の言うことですか。

芦刈 あの、連携室の。

鈴木 ああ。

芦刈 なんかそういうところがあるみたいで、廊下ですれ違っても、あいさつもしてくれないし。

鈴木 フフッ。え、私たちの言うことを聞かないって、誰が言うことを聞いてくれないとか言ってるんですか。

芦刈 僕がです、うん。

鈴木 あ、センターとか芦刈さんが。

芦刈 あんまり、こう、退院したくないみたいな感じなんで、病院としては。

鈴木 ああ。

芦刈 そういうのはちょっと、み、見え隠れするんですけど。

鈴木 そうですか。

芦刈 うん。でも、それはそれで僕はあれなんで、普通の支援してほしいと思うんですけど。

鈴木 でも、地域連携室ってソーシャルワーカーの人たちがいるわけですよ、そこに。

芦刈 そうですね。

鈴木 本来ならばその退院の支援をしてくれるはずの所なんですけど、なんかやってくれないんですか。

芦刈 いや、なんか、来てからちょっといろいろ厳しいことを言うようになってて。

鈴木 ああ。

芦刈 実際やってる、なんか白い人がやってるんで。

鈴木 その、療養介護っていうふうにおっしゃってましたけど、その療養介護ってどういう意味で芦刈さん、言葉使ってらっしゃるんですか。

芦刈 もうやっぱり一般病棟とは違うなと思ってて。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ。

芦刈 その一、病院って機能ももちろんあるんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 でも、生活の場っていうところは、僕たちは大きいと思ってるんで。

鈴木 なるほど。

芦刈 もうずっと長期なんで。

鈴木 はい。

芦刈 ちょっと、その一、用事があったりとか。

鈴木 はい。

芦刈 (#####@00:36:28) あったりとか、そういうのは療養介護のいいところかなと思ってるんですけど。もうどんどん一般の病院がしてきてるので。

鈴木 うん。

芦刈 ちょっと、なんか違うんじゃないかな。

鈴木 その療養介護の対象になってる人っていうのは、その、ず、ずっとその長期で入院されている人って、そういう意味ですか。

芦刈 そうですね、契約しないといけないんですよ。

鈴木 あ、分かりました。あ、その療養介護、つまり障害者総合支援法の療養介護って意味ですか。

芦刈 そうそう、うん。

鈴木 ああ。

芦刈 それで全部変わって、ずっともっと(#####@00:37:07)なんで。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 びよ、病院さんもそれだったんですけど。

鈴木 なるほどなるほど。つまり、えっと、療養介護っていうのは日中、く、の、そのいろんな支援を、し、するサービスですよ。

芦刈 そうですね。

鈴木 そこが、じゃあ、いろいろ、こう、退院の、し、あの、支援をすることになってるってことなんですか。

芦刈 まあ、あの、病棟の職員はなかなかできないんで。

鈴木 はあはあはあ。

芦刈 相談室が、まあ、動いてくれてる感じで。

鈴木 へえ。

芦刈 で、僕たちも、あの一、介護保険じゃないんで。

鈴木 はい。

芦刈 僕のが相談支援員なんですよ。

鈴木 そうですね、はい。

芦刈 西別府、相談支援員っていう形で。

鈴木 はい。

芦刈 いないんじゃないかな。

鈴木 相談支援専門員のことですか。

芦刈 はい。あの、別の、全然違う事業の人にみんな頼むので。

鈴木 ですよ。

芦刈 うん。

鈴木 で、びょう・・・。

芦刈 なんか、その辺もなんか、自分たちであんまり手を出せないみたいな。

鈴木 へえ。

芦刈 思ってるのかなと思って。

鈴木 ああ。ん、病院の中にいらっしやらないんですもんね。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ、なるほど。

芦刈 多分いても頼まないと思う。

鈴木 ああ、いても頼まない、ふーん。

芦刈 うん。

鈴木 うーん、そうか。で、えっと、何ですか、その、重心の、ごめんなさい、重心の、あの、病棟ってのが前、あ、あったわけですよね。あの一、要するに小児科病棟のときに重心病棟ってのがあって。

芦刈 うん。

鈴木 その人たちは、え、芦刈さんが北の2に行ったときってどこに行かれることになったんですか。

芦刈 いや、その人たちは移動なし。

鈴木 あ、小児科病棟にずっと、い、いた？

芦刈 はい。あと、それこそ、こう、プレハブみたいな所にみんないましたよ。

鈴木 え。

芦刈 あ、(#####@00:38:58)病棟あって、うん。

鈴木 き、北の2に入ったときもそこにいたってことなんですね、じゃあ。

芦刈 はい、重心の人たちはずっとそこで。3病棟あって。

鈴木 はあはあはあはあ。

芦刈 まあ、でも虫も結構、出て。

鈴木 へえ。

芦刈 衛生的に。あの一、こ、部屋で区切られてないんで。

鈴木 はあはあはあ。

芦刈 いつもカーテンとかも広がりやすくて。

鈴木 へえ。

芦刈 大部屋だったんで。

鈴木 はあ。

芦刈 で、で、また重心の(#####@00:39:24)よりも。

鈴木 はい。

芦刈 大部屋のほうが目が届いて、本当はいいですね。

鈴木 はあ。

芦刈 真ん中の広間にみんな集めて、うん、うん。やったほうがやりやすい。

鈴木 で、それで今はもうその病棟ないんですよね。

芦刈 ああ、ないです。

鈴木 で、みんなそこの、えっと、東に。

芦刈 東の3、3病棟、4病棟が。

鈴木 に、集約されてるんですもんね。

芦刈 が、重心病棟。

鈴木 なるほど。で、そこから、ごめんなさい、さっき、さっきおっしゃってた、その、い、1病棟にも、あ、1っていうか東の1階にも、その重心の人が、下に下りて、き、きてるってことなんです、ですよ。

芦刈 そう、東1と2。

鈴木 に、おり、下りてきてるんですよ。

芦刈 うん、10人ずつ分かれて。

鈴木 あ。

芦刈 3病棟あったけ、 $3 \times 4 = 12$ で120人いて。

鈴木 はいはい。

芦刈 それを50、50で100で20人余るんです。

鈴木 なるほど。

芦刈 それで1階、2階に、振りか、振り分けられたんです。

鈴木 あ、そういう意味なんだ。つまり、あの一、東の1階に、き、筋ジス病棟だけで40から50に変わりましたよね。

芦刈 はい。

鈴木 それにプラスアルファ、重心の人が10プラスになってるってことですか。

芦刈 増えた10っちゅうのは重心病棟の人。

鈴木 あ。

芦刈 うん。

鈴木 そういう意味ですか、なるほど。じゃあ、要するに50しか入らないんですね、いずれにしても。

芦刈 うん、50しか入らない。

鈴木 ああ、はあはあ、なるほどね。

芦刈 (#####@00:40:50)、50、うん。

鈴木 はいはいはいはい。で、えっと、じゃあ、じゅ、1階には、じゃあ、重心の人が10名

いて、40名の筋ジスの方がいらっしゃるっていう状況ですね。

芦刈 そう。まあ、ちょっと割合がちょっと、まあ、変わってるんですけど。

鈴木 あ、はあはあ、大体そんなもん。

芦刈 はい。

鈴木 はあはあ。

芦刈 (#####@00:41:09)ともあるんで。

鈴木 なるほどね。で、その一、何ていうんですかね、お、ちょっとお部屋のことを聞かせてもらいたいんですけど。小児科病棟のときって何人部屋でしたか。

芦刈 いや、その頃も、あ、その頃は、そうだ、呼吸器とかなかったんで。

鈴木 はい。

芦刈 多い所は8人、い、入れられてました。

鈴木 8人。芦刈さんが、い、いたお部屋は何人でしたか。

芦刈 僕ん所も8人。

鈴木 8人。それもともと8人部屋だったんですか。

芦刈 あれ、でも、広さ的には普通、6人部屋ぐらいじゃないかなと思うんですけど。

鈴木 へえ。

芦刈 で、隣のベッドの人、すぐ目の前に、横向いたらすぐ見える。人が1人やっと入れるかぐらいの。

鈴木 へえ。

芦刈 みんな呼吸器とか使ってなくて。

鈴木 はい。

芦刈 結構、動けてる人ばかりだったんで。

鈴木 それは、あの、ベッドが置いてあるんですよね。

芦刈 はい。

鈴木 ああ、はあはあ。その8人部屋っていうのは、なん、幾つぐらいあったんですか、その小児科病棟のときに。

芦刈 それは何部屋かな。4部屋ぐらいかな。

鈴木 4部屋。

芦刈 そうそう。観察室とかは4部屋とか。ちょ、ちょっと人数は少なかったですけど。

鈴木 観察室。

芦刈 はい。

鈴木 それはなんですか、観察室っていうのは。

芦刈 あの一、容体が悪くなったら。

鈴木 ああ。それはな・・・。

芦刈 様子見の。

鈴木 個室ですか。

芦刈 はい。個室と、まあ、4人部屋。あの一、観察室あるとき4人ぐらい入ってたから。集中治療室みたいな感じ。

鈴木 あ、なるほど。じゃあ、い、その4人は個室だったってことなんですね、観察室で。

芦刈 いや、個室じゃないですね。広い所に、あの、入ってましたね。

鈴木 何人ぐらいなんですか、観察室ってのは。

芦刈 3、4人、多いとき6人ぐらいですかね。

鈴木 あ、観察室でも、その、多いときで6人ぐらい入るんですか。

芦刈 結構、広かったんで。

鈴木 へえ。じゃあ、その観察室が4人とか6人いて、で、8人部屋が大体、四つあったってことなんですね。

芦刈 はい、それぐらい。

鈴木 あ、ということは、じゃあ、何ていうんですか、個室はないんですね、子どもの部屋は。

芦刈 個室はないですね。

鈴木 ああ。

芦刈 (#####@00:43:25)。

鈴木 なるほど。

芦刈 でも、ドアとかはないんで、オープンで。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。外から丸見えでした。

鈴木 ああ。じゃあ、その一、他の、えっと、その、芦刈さんいたのは2っていう所だと思うんですけど、3もそんな感じだったってことですね。

芦刈 そうです、一緒です。

鈴木 ああ。

芦刈 造りは一緒なので。

鈴木 造りは一緒。あの一、で、その後は、えっと、北の2に行ったときってのは、何人部屋になったんですか。

芦刈 そのときに4人部屋かな。

C一 そのとき4人部屋。

芦刈 うん。で、そのときはもうドアが付いてて、完全に閉めたら個室になる、4人部屋で、うん、4人部屋も、うん。

鈴木 4人部屋でね。その、他も4人べ、あの、北にいつてんの大体、他も4人部屋なんですか。

芦刈 そうですね。

鈴木 ふーん。個室はありましたか。

芦刈 個室もありました。

鈴木 何部屋ぐらい？

芦刈 四つぐらい。

鈴木 四つぐらい。

芦刈 そこはもう、1人ずつ入る感じ。

鈴木 ああ、四つ、じゃあ個室が、ある、あったんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 はあ。じゃ、あとは4人部屋？

芦刈 ほぼ4人部屋です。

鈴木 ほぼ4人部屋。その、えっと、個室っていうのはどうしたら入れるんですか。

芦刈 いや、その、体調悪いとき。

鈴木 あ、じゃあ、観察室って扱いなんですね、個室は。

芦刈 そうです、うん。

鈴木 じゃあ、じ・・・。

芦刈 だから別に、そこに行くのはいいことではない。

鈴木 いいことではない。

芦刈 体調悪いときだから。

鈴木 ああ、例えば、なんか自分、他の人と、た、あの、関係悪くなって個室がいいんだけどつつつても、どうなるんですか。

芦刈 空いてないですね、その具合が悪い人が入ってるんで。そういうのはちょっと通らないかもね。まあ、ど、どうしてもものときは部屋替えで、部屋が替わる感じでした。

鈴木 えっと、その一、ひ、東の、い、1階もそんな感じですか。今、よ、今いらっしゃる4人部屋ってことですよ、今もね。

芦刈 そう、4人部屋です。

鈴木 はあ。じゃあ、同じようにそこも、えっと、個室が四つぐらいあるんですか、今も。

芦刈 個室が5個、あ、6個あります。

鈴木 あ、ちょっと増えてんですね。

芦刈 はい。

鈴木 上もそうですか、2階も。

芦刈 はい。うん、ほぼ一緒です。

鈴木 ああ。じゃあ・・・。

芦刈 (#####@00:45:35)。

鈴木 ...若干、じゃあ、個室がちょっと増えたかなって感じなんですね。

芦刈 そうですね。まあ、人数増えたんで。

鈴木 ああ、人数増えてね、なるほど。

芦刈 うん、50床なんで、はい。

鈴木 はあはあはあ。で、この、なんか、部屋の、お、わん、誰がここにいるとか、行くとかって誰が決めるんですか。

芦刈 あ、もう、あの、ちょ、ナースたちが。

鈴木 ああ。

芦刈 ここ、周り熱くなってるから、太陽の日が、日が当たりやすさとか。トイレの時間とか、回りやすさとかを考えて。だから、こう、仲いいとか悪いとかそういう患者同士の、そういうのはなくて。こう、都合ですね、職員の。

鈴木 で、その、ん、なんか、仲が悪くなったときに部屋替えたいんだけどって言われたとき、部屋替えてできるんですか。

芦刈 まあ、その一、替われる、替われれば、あ、できますけど。

鈴木 ああ。

芦刈 でも、まあ、なかなかすぐに替えてくれなかつたりするんで。

鈴木 うーん。

芦刈 うん。

鈴木 芦刈さんは、かつてそういうことってありましたか。

芦刈 ああ、まあ、何回かはありました。あの、いつか、しばらくそこで我慢してて。

鈴木 ああ。

芦刈 ここは最終的には替えてくれました。

鈴木 ああ。やっぱり、その、なんか人間関係のあれですか、トラブルとかそういうことですか。

芦刈 まあ、そうですね、いろいろ、長くいればあるんで、うん。あの、テレビの音の大ききさだったりとか、うん、ささいなことではあるんですけど。ずっとになると、うん。

鈴木 なるほどね。あのー、最初に、こう、芦刈さん4年生のときに小児科病棟に入ったときの、その最初の日って覚えてらっしゃいますか。

芦刈 ああ、覚えてますよ。

鈴木 ど、どんな感じでした？ 最初に入ったときって。

芦刈 まあ、もう、僕は寂しいが一番で。

鈴木 ああ。

芦刈 親が帰ったら、な、ずっと泣いてて。

鈴木 うん。

芦刈 もう4年生になったんで。まあ、でも、その一、年近い子が多くて。で、あの、検査入院したことがあって、そのときに、あの一、友達になった人も多かったんで。その人たちが声掛けてくれて、救われた部分は大きいです。

鈴木 検査入院ってのは、その一、小学校4年生に入る前に入院されてた？

芦刈 あ、よ、4歳ぐらいのとき。

鈴木 あ、4歳。じゃあ随分・・・。

芦刈 特にみんな大体、入ってて。

鈴木 ああ。

芦刈 僕の、ちょっと、何年か前に入院してたりとかしてて、うん。

鈴木 じゃあ・・・。

芦刈 だから全く知らん顔じゃなかったの。

鈴木 うん。

芦刈 救われました。

鈴木 ああ。あ、でも、なんか、あの一、本とかでも書かれていますけど、自分で決められたんですか、入院するのは。

芦刈 そうですね、一応。何も考えずに、何となく自分で決めた感じですね。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 でも、はいつ・・・。

芦刈 あんまり筋ジスって知らなかったんです、どういう病気か。親に、こう、面と向かってあんまり説明聞いたことないし。なんか入院もちょっとだろうと思って、で、入院した、うん。

鈴木 でも、やっぱり最初の日っていうのは、すごく寂しい思いをしたってことなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 で、つまり親と一緒に、こう、来て、で、それで親が、こう、じゃあ、頑張ってねみたいなこと、言われたってことですか。

芦刈 うん、そうですね。

鈴木 ああ。じゃあ、もう、これから自分は1人でここで、し、あの、しばらくは生活することになるんだって、そういう思いだったってことなんですかね。

芦刈 そうですね。

鈴木 うーん。

芦刈 地元にも友達が多かったの。

鈴木 ああ。

芦刈 そこを別れるのはつらかった。

鈴木 ああ、小学校・・・。

芦刈 自分で決めたとはいえ。

鈴木 うん、なるほどね。

芦刈 楽しかったの。

鈴木 ああ、はあはあはあはあはあ。

芦刈 学校生活が嫌とかじゃなかったんですよ。

鈴木 はいはいはいはいはい。

芦刈 すごい友達に恵まれてたので、よかったですけど。

鈴木 うーん。

芦刈 今、考え、知っちゃったら、卒業まではいたかったなと思います。

鈴木 うーん。

芦刈 うん。

鈴木 結局、あの一、あの一、要するに3階になるっていう、そこが一番ネックになったってことですよ。

芦刈 そうですね。

鈴木 うーん。

芦刈 上るのはきつかったです。

鈴木 うん。あのとき、なんか、何ていうんですかね、その一、まあ、エレベーターを設置するっていうのは難しいかもしれないけど、なんか言っとけばよかったなっていう思いがあるってことですか。

芦刈 そう。あの一、階を、まあ、下に変えてもらったりとか。

鈴木 はい。

芦刈 配慮ができたんじゃないかな。

鈴木 うん。

芦刈 うん。もう絶対、3階に上がらんといけないって思ってたんで。

鈴木 うんうん、うん。

芦刈 うん。

鈴木 うん。

芦刈 で、まだ10歳の小学生には分からないんで、そういうのって。

鈴木 うん。

芦刈 うん。今、考えれば分かりますけど。

鈴木 なるほどね。あの一、その、小児科病棟のお部屋って、な、えっと、要するに8人とかいらっしゃると思うんですけど、つ、何年生とかなんですか。その一、みんな近い年齢の人たち？

芦刈 まあ、近い年齢の人が多かったですけど。

鈴木 うん。

芦刈 まあ、こう、高校生とかもいたりとか。

鈴木 へえ。

芦刈 もう成人してる人も中にはいましたけど。

鈴木 あ、何歳ぐらいの人ですか、成人してる人って。

芦刈 い、多分、22とか。

鈴木 ああ。

芦刈 みんな若かったですね、今、考えると。

鈴木 あ、そ、それ他の部屋もそうってますか。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ。それ、わざ、わざとっていうか、こ、意図的にそうなるんですか。

芦刈 いや、別に意図をしてないと思う。

鈴木 ああ。

芦刈 ただ、結構、一番奥の部屋にも結構やんちゃな人たちが集まって。

鈴木 はあ。

芦刈 悪の部屋やなどか言われてた。

鈴木 え、な、何て言われてた？

芦刈 え、わ、悪、悪ばっかやと。

鈴木 フッフッフ、そ、そ。

芦刈 言うことを聞かなかった。

鈴木 ハハハ、え、それはなんか、お、なんか、わ、わ、なんかそういうふうに意図的だったんですか。

芦刈 いや、た、多分、その、具合がいい人が奥に行くんで。

鈴木 ああ。

芦刈 状態がいい、元気な人が奥に。

鈴木 そうということ。

芦刈 いくようにはなってたんで。

鈴木 ああ。

芦刈 元気がいい人が多かった。

鈴木 あ、つまり、ごめん、元気がないっていうか、その一、げん、なんか、その、み、見守りが必要な人ってのは、ある一定の場所に集まるってことなんですか。

芦刈 あの、ナースステーションに近い所。

鈴木 ああ。

芦刈 目が届く所に大体いくので。

鈴木 なるほどね。

芦刈 そう。

鈴木 ふんふんふんふん。

芦刈 それがちょっと目安っていうか。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 何ていうか、あの。

鈴木 じゃあ、まあ、いずれにしても8人だから、もう、あんまり、こう、す、スペースもないですよ、もう。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ。その、ひ、し、ひ、広さ的には今のお部屋ぐらいなんですか。今、芦刈さんがいらっしゃる部屋っていうか。

芦刈 これよりはちょっと広いかも。

鈴木 ちょっと広いぐらい、はあはあ。でも、やっぱり大変じゃなかったですか。なんか、こ、8人って相当な数だと思うんですけど。

芦刈 まあ、その一、けんかとかしたら、たまらないですよ。

鈴木 うーん。

芦刈 目の前にいるんで。

鈴木 うん。

芦刈 うん。ずっと口利かなかったりしてても。

鈴木 はい。

芦刈 だんだん(****タエレンコト@00:53:23)なって、どっち、謝ることもなくなった。自然にまた、な、仲良くなっていくから。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 やっぱ・・・。

芦刈 い、今、あの、1人テレビ1台ですけど、その頃は部屋に1台しかなくて。チャンネル権をちょっと、あの一、や、まあ、ちょっ、先輩が持ってて。その人、見るのしか見れないみたいな。

鈴木 あ、チャンネル、チャンネル権ですか。

芦刈 そうそう、そうです。

鈴木 あ、じゃあ、先輩が、じゃあ、結構あずかって決めちゃって。

芦刈 そうです、はい。

鈴木 ああ。

芦刈 ちょうど、なんか『ドラゴンボール』がアニメにやってて。あの一、その、アニメ見る部屋にみんな集まって見ました。

鈴木 フッフッフ、なるほど。

芦刈 うん。

鈴木 そ、その一、やっぱりカーテンの仕切りなんかなかったですね、その当時はね。

芦刈 あ、とうとうなかったですね。

鈴木 ああ。やっぱ北の2、北2に移ったぐらいですか、カーテンの仕切りができるようになったのは。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ。

芦刈 うん、プライベートも何もなかった。

鈴木 なかった。あの一、持ち物ってどういうものが持っていったんですか。その一、なんで、ん、何でもありですか。

芦刈 ああ、まあ、その一、度を過ぎるもの持ってきたら(#####@00:54:46)ですけど、別に特には、邪魔にならなければ言われなかった。

鈴木 た、例えば子どもだったらテレビゲームだとか、なんかそういう、なんですかね。

芦刈 ああ、あの一、プレイルームがあって、そこに1台ゲーム機があって。

鈴木 へえ。

芦刈 でも小学生はやる日が決まってて。1人は30分ぐらいだったかな。で、子どもたち多いんで、取り合いになる。一応、小学生だからって言って、予約が結構あって。なんか電

話もかけにいったらいけんとか言われて、公衆電話。

鈴木 そのプレイルームって、えっと、テレビゲームがあったっていうのは、なん、だ、と、と、どういうゲームがあったんですか。

芦刈 まあ、ファミコンですね。

鈴木 あ、ファミコンがあったんですか。

芦刈 はい。

鈴木 それが30分しか利用できなかったんですね。

芦刈 あ、小学生は。

鈴木 え、い、ごめんなさい、1日30分？

芦刈 一応、決まってる。いや、違う、決まった日。

鈴木 決まった日に。

芦刈 要は週1回だったってことです。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 じゃあ、1人の子どもからすると、い、1週間1回だけ、し、しか利用できない？

芦刈 そうそう。

鈴木 ああ。

芦刈 まあ、あの一、先輩たちは好きな時間に好きなだけやってた。

鈴木 あ、それどうしてですか。

芦刈 いつも、いいなと思ってた。いや、なんか分かんないけど、小学生は駄目って言われて。

鈴木 あ。

芦刈 うん、なんか上からのルールみたい。

鈴木 先輩ってのは中学生以上は。

芦刈 うん、うん、そう、中学生以上は、うん。

鈴木 どこでやってたんですか、自由に。

芦刈 え、そのプレイルームで。

鈴木 あ、プレイルームで、へえ。

芦刈 うん、ゲーム機は1台しかない。

鈴木 ああ、なるほど。え、例えば、その、自分のお部屋になんかそういう、ゲーム&ウオッチとか、なんかそういう、何ていうんですかね、小さいものって持ってこれなかったんですか。

芦刈 まあ、で、電池式だったら持ってきてOK。

鈴木 あ、それは大丈夫ですか。

芦刈 ゲームボーイとかちょうど出始めた頃で。

鈴木 あ、そうですね。

芦刈 そ、そういうのは全然よかった。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 ただ、電気を使うのはね、絶対、駄目だって。

鈴木 あ、電気を使うのが駄目。

芦刈 ラジカセも電池で聞いてって言われてて。

鈴木 電池ね、ああ。

芦刈 今どき、電池で動くラジカセなんかないです。

鈴木 なるほどね。

芦刈 うん、その頃。

鈴木 つ、つまりコンセントを使えないってことなんですね。

芦刈 そう、電気代があんまり、うん。

鈴木 コンセントって、ん、に、何口までとかって決まっていたか。

芦刈 いや、決まっていたけど、ほとんどみんな使えなかった。

鈴木 使えなかった。

芦刈 ベッドサイドになかったんです。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 北2はどうですか。北2のときになって、コンセントって。

芦刈 コンセントはいっぱいありましたよ。

鈴木 ん、い、1人幾つ使えましたか。

芦刈 非常電源もあって結構、使える、五つか、ぐらい使えたかな。

鈴木 五つ。

芦刈 はい。

鈴木 へえ。

芦刈 あの頃はもう1人1台、テレビ。

鈴木 ああ、はあはあ。

芦刈 持ってて。ゲーム機もそれぞれ持ってよかった。

鈴木 へえ。

芦刈 それぞれで買って、自分たちの部屋でやってました。

鈴木 じゃあ、コンセントはもう5個とかも使っちゃって、い、大丈夫だったんですか。

芦刈 そうですね。

鈴木 へえ。ちなみに今でもそうなんですか。

芦刈 あ、今もそうです、うん。まあ、一応、電化製品だったら、一応、申請出さなきゃいけない、こういうの使ってます。と、あの一、無線とかWi-Fiとか一切、駄目なんで。

鈴木 あ、そうなんですね。

芦刈 電波は全然、使えない。

鈴木 え？ ごめんなさい。

芦刈 それ以外は。

鈴木 あ、そうなんですか。え、ごめんなさい、無線って使えないんですか。

芦刈 あの、Bluetooth とか。

鈴木 はい。

芦刈 ああいうの、一切、使えない。

鈴木 え、Wi-Fi は通ってないんですか。

芦刈 あ、Wi-Fi も、あの、使ったら駄目だって。

鈴木 ああ。

芦刈 医療用の電波とかぶるからちゅって、うん。

鈴木 りよ・・・。

芦刈 でも、全部、あの一、LAN ケーブルでつないで、うん、取りあえずでゲームやってる。

鈴木 じゃあ、病院が提供してる Wi-Fi サービスなんかはないんですね。

芦刈 ないです。

鈴木 ん、じ、じゃあ、LAN ケーブルは一応、使えて、使えてると。

芦刈 あの一、個人で契約したら。

鈴木 はい。

芦刈 ベッドサイドに線はきてるんで。

鈴木 はい。

芦刈 で、大本の(#####@00:59:16)があつて。

鈴木 はい。

芦刈 そこで線を、い、入れたいとこさえ入れば、うん、使える感じ。

鈴木 それ、なんか、あれですか。高校生のときから使えるようになったんですか。

芦刈 高校の、なんか、終わりぐらいのときにはパソコン通信って呼んでた頃で、そこに僕の担任の先生がパソコン詳しくて。

鈴木 うんうんうん。

芦刈 そのとき初めて回線を入れて。

鈴木 はい。

芦刈 何人かで契約してお金払って、うん、最初はそんな感じでした。

鈴木 その高校の3年のときの担任の先生がやってくれたんですよ。

芦刈 (#####@00:59:58)、1、2年の頃の担任の先生。

鈴木 あ、1、2年の頃に。で、す、高3のときにインターネットを入れてくれた？

芦刈 はい、そうです。

鈴木 それでもう……。

芦刈 みんなで、みんなで使ってますから。

鈴木 へえ。じゃあ、それは、なんかもう、高3のときぐらいから、もう、インターネットはみんな使えるようになったってことなんですね。

芦刈 まあ、希望する人は。

鈴木 へえ。

芦刈 そこまで希望する人いなかった。

鈴木 あ、いなかった。

芦刈 うん。

鈴木 ん、ちなみに利用料金とかあるんですか、それ。

芦刈 まあ、一応、会費みたいな取ってまして、うん、1人幾らって。

鈴木 ああ、1カ月お幾らですか。

芦刈 その頃、結構したんやないかな。

鈴木 ああ。

芦刈 (#####@01:00:42)。ま、結構、高かった。

鈴木 高かった。え、ちなみに今でもそうなんですか。

芦刈 今はもう線はきて、個人的にプロバイダー契約してる。で、うん、うん、線つないでもらえばできる。

鈴木 あ、今はもう個人的にプロバイダーと契約する状況になってるんですか。

芦刈 うんうん、個人個人。

鈴木 ああ。

芦刈 まとめてはやってない。

鈴木 まとめてやってない。え、それ個人個人のLANケーブルってのは、その病室の、その一、ところに、ひ、引いてくれるの？

芦刈 壁のところに穴があるので。

鈴木 はあ、なるほど

芦刈 契約さえすれば、そこに挿せばできる。

鈴木 じゃあ、もう、それは病棟とか病院関係なく、もうプロバイダーと契約をして、契約料を払えばもう使えるように、な、なるんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 え、それを・・・。

芦刈 今、病院でその線を。

鈴木 ええ。

芦刈 NTT によって。

鈴木 はいはい。

芦刈 あ、つないでもらえれば。

鈴木 なるほどね。そうなったのってあれですか、あの、東に、うつ、なってからですか。

芦刈 東病棟のときも、あの、あのときもそうでしたね、確か。

鈴木 あ、北のときもそうだった？

芦刈 うん、そうだったと思います。

鈴木 へえ。じゃあ、まあ、北、北2っていうか、その一、しばらくは、いん、あの、高3のときは、あの一、LAN ケーブル使ってた。で、しばらくたってから個人契約もできるようになったってことなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 へえ。

芦刈 もうそのときは周りの電波が発達してたので。

鈴木 なるほどなるほど。

芦刈 うん。

鈴木 ただ、一方で無線の、あの、そういう、あ、何ていうんですかね、その一、えっと、Wi-Fiを使ったりすることはできないってことなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 はあ。でも、す、それはどう思います？ その、使えないってことについては。

芦刈 い、いや、すごい不便ですよ。

鈴木 ああ。

芦刈 だって伸びた線が付いてると煩わしくて、引っ掛かったりとかするんで。それが一番いいと思う、使えないんで。わざわざ、あの、LAN ケーブル挿すとこ付いてないと、この、付いてないパソコンでわざわざ変換プラグ買ってLAN ケーブル使ってますから、うん。

鈴木 あ、この今、Zoom やるのにもLAN ケーブルでやってるわけでもんね。

芦刈 そうです、はい。

鈴木 うーん。例えば携帯の、あの、なんでしたっけ。その一、えっと、携帯の電話回線でインターネットをするってできるんですか。

芦刈 いや、基本あんまり病室内でスマホ使うのは、あんまり、いいって言われな。

鈴木 ああ、それできないんですか。

芦刈 うん、できないですね。

鈴木 電話自体もできない？

芦刈 まあ、使ってる人もいますけど。

鈴木 ああ。

芦刈 あまり大っぴらに言ってはないです。例えば病棟の食堂だったり、プレイルームで使
ってって表記はされてます。

鈴木 つまりこれ、医療機器の影響があるからって言われるってことですか。

芦刈 そうですね、うん。

鈴木 ああ、それはでも不便ですね、なんか。

芦刈 そうなんです。

鈴木 うーん。

芦刈 例えば、あの、病室、病棟、病室から動けない患者さんが、行事に参加するってなっ
たら、行けないんで、そのWi-Fiとかあったらちょっと、(#####@01:04:13)、あの、タ
ブレットとかで見せながら参加自体はできる。でも、そういうことができないっていう、う
ん。学校はもうリモート、オンライン面会でやることが多くて、病院のタブレットは、まあ、
使えるようになったんですけど。まあ、決まった時間、月1回なんで、うん、なかなか。

鈴木 その、タブレットを病棟が使うときって、それはWi-Fiですよね。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ、じゃあ、そこは使っていいんですね。そのときは、Wi-Fi。

芦刈 病院が、病院の。

鈴木 ああ、はあはあ。

芦刈 病院がやってるからいいんじゃないですか。

鈴木 ああ、なるほどね。あの一、じゃあ、今の段階だと、テレビとかラジオとかはもう1

人1台、もう持っていい、もう全然、構わないって状況なんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ。例えば、あの一、たん……。

芦刈 テレビもレコーダーも、あの、二つとも使ってます。

鈴木 ああ、そうですか。

芦刈 うん。

鈴木 まあ、大体そうなのは北の、北2にいたぐらいからですよ。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ。たんすとかってどうですか、衣類とか。

芦刈 ああ。

鈴木 置けますか。

芦刈 いや、もう、支給されてるチェストが。

鈴木 はい。

芦刈 今、僕は全部入らない。

鈴木 ああ。

芦刈 服が、あの一、病院の中で洗濯してなくて。

鈴木 うん。

芦刈 親に持って帰ってもらって、家で洗ってもらおう。

鈴木 はいはいはい、はい。

芦刈 うん。だから結構、おき、置く場所がなかったりして。

鈴木 うん。

芦刈 必要最低限しか持ってけてない。

鈴木 ああ。その、北の2にいたときは、もうちょっと、じゃあ、衣類は、お、置けたって
いうことなんですよ。

芦刈 ロッカーがあったんで、そこに入れてたっていう。

鈴木 ロッカーね。お風呂場の前でしたっけ。

芦刈 そうです。

鈴木 ああ、じゃあ、自分の部屋にはなかったんですね、でも。

芦刈 自分の部屋にはなかったです。

鈴木 ああ。

芦刈 まあ、あの一、いっぱい収納あったんで、入れたい人は入れても全然よかった。

鈴木 ふーん。

芦刈 相当あったんで、収納が。

鈴木 あ、前のほうが結構あったんですね、やっぱりね。

芦刈 あ、棚も付いてたんで、ベッドの上の所に。

鈴木 ほ、なるほど。じゃあ、まあ、新しい場所に移って、逆に収納スペースがなくなって
しまったってことなんですね。

芦刈 そうですね、うん。

鈴木 はあ。あと冷蔵庫とかってどうですか、置けないんですか。

芦刈 個人的なのは置けません。

鈴木 置けません？

芦刈 その代わり食堂に1台あって、そこにみんな入れてもらう。

鈴木 ああ。

芦刈 うん、名前書いて。

鈴木 あ、名前書いて。でも、それはわざわざ、こう、取りに行かなきゃいけないわけでもんね、そこに。

芦刈 取りに行ってもらおう。

鈴木 あ、い、取りに行ってもらおう。あ、かん、ナースに取りに行ってもらおう。

芦刈 はい。

鈴木 ああ。そういうのは、ひ、あの、結構、取りに行ってくれるんですか、頼めば。

芦刈 ああ、まあ、あの一、ジュースとか飲む時間とか、まあ、一応、決まってる。

鈴木 へえ。

芦刈 まあ、それ以外に飲みたいってときは、もう取りに行ってもらったりしますね。

鈴木 ああ、そうなんですわね。

芦刈 はい。

鈴木 お菓子とかって、それも冷蔵庫に入れておくんですか。

芦刈 まあ、入れてる人もいますね。

鈴木 部屋に置い……。

芦刈 あのー、ゼリーとかアイスとか。

鈴木 ああ。スナック類とかは、煎餅とかチョコレートとかって、部屋に置くことはできるんですか。

芦刈 あ、部屋に置けます。僕、あの、1個、引き出しはお菓子ボックスがある。

鈴木 ああ。え、ちなみにそのお菓子っていつでも食べていいんですか。

芦刈 まあ、あのー、食べさせてもらうんで。

鈴木 はい。

芦刈 じ、時間外はちょっと厳しいですかね。

鈴木 ふーん。

芦刈 しょく、食事のときに、ちょっと食後に、ご飯食った後にちょっと取ってきて、食べさせてもらうかな。

鈴木 あ、それ、じゃあ、ナースは取ってくれるんですね。

芦刈 まあ、そのときだったら。

鈴木 ふーん。

芦刈 で、そのー、3時ぐらいに一応ジュース飲む人や、飲んだりアイス食ったりする人がいるので。そういった決まってる人は、その時間に飲んだり食べたりします。

鈴木 そ、その決まってる人はっていうのは、その、介助する人はそうやって、き、時間決まってるってことなんですか。

芦刈 あ、まあ、自分で取って食べられる人は。

鈴木 うん。

芦刈 まあ、じ、自由なんですけど。

鈴木 なるほど。

芦刈 ほとんどそういう人はいないので。

鈴木 ああ。つ、つまり誰かの介助が必要だから、時間が決まってるってことなんですね。

芦刈 はい。

鈴木 あ、へえ。

芦刈 まあ、希望なんで、別に飲みたくない人は飲んでないです。

鈴木 ああ。でも、なんかご飯食べた後、おなかすいて、なんかそれを食べさせてもらうことってのは、やってもらえるんですね。

芦刈 そうですね、一応。

鈴木 つまり、なんか、決まった時間じゃなくて、8時とか。

芦刈 いや、決まった時間じゃないと。

鈴木 あ、決まった時間なんですね、それはね。

芦刈 ご、ご飯の時間とか。

鈴木 ああ。え、ご、ごめんなさい、ご、ええ。

芦刈 朝、7時半から食事なんで。

鈴木 ああ、朝ご飯ですね。

芦刈 で、そのときに合わせて食べたりしてます。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 えっと、その一、朝ご飯って今、7時半っておっしゃいましたよね。

芦刈 はい。

鈴木 それは休日もそうですか。

芦刈 関係ないです、平日。

鈴木 ああ。

芦刈 はい。

鈴木 それ、あの、朝起きる時間って決まってるんですか。

芦刈 基本、6時ですね。

鈴木 一応、6時。それみんな、全員そうですか。

芦刈 まあ、あの一、順場に、こう、顔拭きしながら回ってくるんで。

鈴木 ああ。

芦刈 時間帯はちょっと、人によってまちまちです。6時前に来る人もいれば、7時前だったりとか。

鈴木 ふーん。

芦刈 そのときの状況にもよるんで、うん。大体は6時起床です。

鈴木 例えば経管の注入をしてる、し、人は早いとかありますか。

芦刈 あ、ご、5時ぐらいから。

鈴木 5時ぐらい。

芦刈 それぐらいからしないと間に合わなくて。

鈴木 なるほど。

芦刈 夜勤帯4人しかいないので。

鈴木 あ、4人なんですね。じゃあ、えっと、そういう経管、され、注入されてる人は、よ、ん、えっと、5時ぐらいなんですよ。

芦刈 早い、早い人はそれぐらい。

鈴木 早い人は。で、あの一、他の人は、まあ、6時ぐらいだと思うんですけど、それって、あの、例えば朝寝坊とかってできますか。

芦刈 多分その後、早めに終わって、あとはもう寝ようが何しようが思うがままで、うん。うん、まあ、自由ですけど。

鈴木 ああ。あ、でも一応は、おこ、起こされちゃうっていうか、その一、顔拭きとかで。

芦刈 うん、一応、顔、ふい、拭いたりはされる。

鈴木 ああ、なるほどね。

芦刈 うがいしたりとか。

鈴木 うがいしたりとかね。

芦刈 その後、寝る人もいますよ。

鈴木 ああ。

芦刈 僕はもう起きて、テレビ見てます。

鈴木 ああ。例えば、その、ご飯7時半だと思うんですけど、その、ん、ご飯を時間をずらすとやってできないんですか。

芦刈 あ、できません。

鈴木 ああ。何時まで・・・。

芦刈 (#####@01:11:32)ないと。

鈴木 何時まで食べなきゃいけないとかありますか。

芦刈 一応、その後、僕、便器を付けるので。まあ、8時10分か15分までには食べないと、次の便器に間に合わない。

鈴木 次の、なんです？

芦刈 あ、あの、便器を入れるタイミングが。

鈴木 便器？ え、ごめんなさい、なんか聞こえないんですけど。

芦刈 便器。

鈴木 あ、便器？

芦刈 おお便器。

鈴木 あ、はいはいはい。

芦刈 (#####@01:12:01)でトイレする。

鈴木 あ、そうなんですね。

芦刈 はい。

鈴木 あ、それに、じゃあ、合わせて食事を済ませなきゃいけないってことなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ。

芦刈 波に乗り遅れると、なんかちょっと、うん、人がちょっといなくなったりとか、うん、入れ替えとかあるので。

鈴木 え、その、ごめんなさい、便器を入れるって何時に入れるってことなんですか。

芦刈 まあ、その一、ご、ご飯終わってすぐ。

鈴木 8時とか？

芦刈 まあ、ちょうど8時ぐらい、10分か15分ぐらい。

鈴木 ああ。じゃあ、それに間に合わせるように、ご飯を食べなきゃいけないってことなんですね。

芦刈 そう、(#####@01:12:40)。

鈴木 うーん。

芦刈 その後だって。じゅ、自分でコーヒー我慢して、切り上げたりもして。

鈴木 じゃあ、変な話、ご飯を食べないとかってできないってことなんですね。

芦刈 たまたま、でもその日に食べなくなかったら、きょうはいいわつつて。

鈴木 あ、食べ。

芦刈 それは別に、うん、大丈夫。

鈴木 でも遅れて食べることは、むず、難しいかなっていう。

芦刈 そう、なるべく時間には。

鈴木 うーん。

芦刈 そろわないと。

鈴木 うん。

芦刈 うーん。

鈴木 あの一、その後、えっと、お昼ご飯って何時なんですか。

芦刈 12時。

鈴木 12時。あの一、で、それで、えっと、おやつ時間が3時頃で。

芦刈 はい。

鈴木 で、夕ご飯は何時ですか。

芦刈 夕ご飯、5時です。

鈴木 5時。で、就寝時間って決まってるっしょいますか。

芦刈 まあ、一応、消灯は9時です。

鈴木 9時ですか。

芦刈 もうテレビも全部消さないと。

鈴木 ああ。その、夕ご飯食べ終わった後に、おやつ時間ってありますか。

芦刈 いや、ないです。

鈴木 あ、それはない。

芦刈 昔はありましたけど。

鈴木 ああ。

芦刈 小児科時代は、みんなまだ夕方まで車いす乗ってたんで。あの、今はないです。そんな余裕がない。

鈴木 ああ。え、昔のその、小児科病棟の時代って、ごは、やっぱり夕ご飯って5時だったんですか。

芦刈 いや、4時でした。

鈴木 4時？

芦刈 はい。

鈴木 ああ。

芦刈 その、5時で職域の職員さん、帰るんで。

鈴木 ああ。

芦刈 それまでにするので。で、まあ、途中で6時からに、話があったんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 6時から食べたら大変なんで、やっぱ、後が時間ないし。

鈴木 うん。

芦刈 やけ、せめて5時にしてくれって、おぎ、お願いして5時になった感じ。

鈴木 え、お、お願いしてって誰がお願いしたんですか。

芦刈 あ、じゃあ、ね、僕たち。

鈴木 あ、自治会ってことですか。

芦刈 まあ、自治会っていうか患者で声上げて。

鈴木 へえ。

芦刈 うん。

鈴木 え、その、ごん、ご、5時になったってのは、い、えっと、いつから5時になったってことなんですか。

芦刈 はい。はい、すみません。

鈴木 ああ。あの一、その4時から5時に、あの一、夕ご飯になったっていうのは、いつからそういうふうになったんですか。

芦刈 小児科じゃなく、あ、違うな、いつからかな。小児科の途中からだったかな、いつからだろう、ちょっと記憶が定かではないです。

鈴木 でも北、北2に行く前なんですね。

芦刈 それはもうなっていました。

鈴木 あ、なっ、なっ、なっってからなんですね。

芦刈 はい、はい。

鈴木 あ、つまり30のときに北2に移って、その以降にそういう要求して。

芦刈 そうそう。

鈴木 5時になったってことなんですね。

芦刈 で、4時からだったんで。

鈴木 うん。

芦刈 おなかすくって言って、6時におやつが出てました。

鈴木 過去にはね。

芦刈 びよ、病院が支給したやつが出てました。

鈴木 なるほどなるほど。で、い、今は取りあえず5時になって、で、その後。あ、今、今、5時ですよ？

芦刈 今、5時です。

鈴木 ですよ。で、その後、別におやつ時間とかないけど、自分で、こう、た、あの、たむ、頼めば食べさせてくれたりとか、するってことなんですね。

芦刈 いや、夕方はないです。

鈴木 あ、夕方食べれない？

芦刈 はい、もう人がいないので。

鈴木 あ、そうなんですか。

芦刈 もう夜勤帯の職員しかいないんで。

鈴木 はい。

芦刈 うん。

鈴木 え、夕ご飯の後は、じゃあ、お、おやつは食べれない状況になるんですか。

芦刈 あ、もう歯、磨いて、あとは9時まで自由時間みたいな感じで。

鈴木 ああ、じゃあ、お菓子を食べれない状況になるってことなんですね。

芦刈 そうですね。まあ、食べるんやったら朝か昼かぐらい。

鈴木 あ、そうなんだ。

芦刈 うん。

鈴木 え、それは、でも、大変じゃないですか。

芦刈 いや、でも、もう時間的、人数的に。

鈴木 はい。

芦刈 きょう、あの一、重度化してるんで。

鈴木 はい。

芦刈 1人に時間かかるし、吸引とかあるし、はい。ちょっと具合悪い人がいると、やっぱり回らなくなるんで。

鈴木 はあ。

芦刈 6時15分に、あの一、遅めの、遅めっていうか、あの、9時半から出てくる人たちが帰るんです。

鈴木 なるほど。

芦刈 日勤帯が8時半からのあって、5時15分にみんな帰るんですけど。

鈴木 はい。

芦刈 その後、まあ、食事介助があるっていうこと、でちょっと1時間ぐらい遅く。で、6時15分まで。でもそれ以降は遅出の、あの、介助員さんが9時までいて。

鈴木 はい。

芦刈 あとはもう、あ、あ、遅めのナースが1人、9時、それも9時ぐらいまでとかいて、あと3人しかいないので、ナースは。夜勤以外は。

鈴木 うん。

芦刈 あ、す、ああ、いや、介助員は昼夜があるんだ。介助員は、あの一、昼夜があります。

鈴木 介助員はいらっしゃる？

芦刈 いや、1人だけ、昼夜で。うん、うん、1人入るね、まあ、ナース3人、介助員1人って感じ。

鈴木 でも、それはおなかすいたりしませんか。

芦刈 基本、慣れてる。

鈴木 慣れて。

芦刈 まあ、慣れてる感じ。

鈴木 ああ、慣れてるから大丈夫なんですか。

芦刈 うん。

鈴木 万が一、おなかすいたりとか、し、したときになんか、あの、え、栄養剤みたいなもの、くれたりとかしないんですか。

芦刈 ああ、ないですね、そういうの。

鈴木 ああ、そういうことはないんですね。

芦刈 うん。もう明日の朝まで我慢して、みたいな感じ。

鈴木 アハハハハハハ。あの一、なんか、その一、例えば家族の人が差し入れを持ってきて、それを食べるってことないんですか。

芦刈 いや、コロナ前はありましたよ。僕ゆっくり食べてたので。

鈴木 ああ。

芦刈 うん、2時間ぐらいかけて食べてたので。

鈴木 ああ。

芦刈 その代わり全部して帰ってました、歯磨きもして。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ。

芦刈 (#####@01:18:56)。

鈴木 ああ。じゃあ、そういうのは自由に、や、あの、誰か介助してくれる人がいたら、自由なんですね。

芦刈 まあ、うん、コロナ前は一応。

鈴木 ああ。

芦刈 自由は利いてましたけど。

鈴木 あ、じゃあ、食べさせてくれる人が、まあ、コロナ前だったら、いれば、もう、いつでも食べていいっていう。

芦刈 そう、なんかもっとゆっくり食事してたんで。

鈴木 へえ。

芦刈 コロナになってから、もう、1時間ぐらいで食べないといけないから大変だった。

鈴木 ああ。

芦刈 けど、もう結局、ある程度で、もうここまでにしとくわって自分でやめることも多い。

鈴木 あ、食べるのやめることが多い。

芦刈 はい。時間見ながら食べてる。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 え、ごめんなさい、それは、ね、どうしてでしたっけ。

芦刈 え、や、まあ、その一、後の時間帯がずれ込むと。

鈴木 はい。

芦刈 人いなくなるし。

鈴木 はあはあはあはあ。

芦刈 うん。まあ、せかされますよね。

鈴木 ああ、せかされるし。え、その、後の時間、え、コロナになってから、それ、結構、そういうことになっちゃったってことなんですか。

芦刈 まあ、そう、僕はずっと来てたので、彼女が。

鈴木 ああ、そういう意味か、なるほど。

芦刈 そうそうそう。

鈴木 うーん。

芦刈 それが今、全くない。

鈴木 うーん、そうですもんね、なるほどね。あと、あの一、何ですかね、その一、朝起きて、その、着替えをするんですよね。

芦刈 いや、起きて着替えない。

鈴木 着替えない？

芦刈 はい。

鈴木 え、着替えてられないんですか、その。

芦刈 いや、もう月、木のお風呂だけです。

鈴木 あ、月、木のお風呂のときだけしか着替えない。

芦刈 うん。で、祭日とかって月、木の、風呂とかが入れなかったり、正月とかお盆、お盆は関係ないな。

鈴木 はい。

芦刈 正月とかになると。

鈴木 はい。

芦刈 そういうこととか。そうなるとその間、清拭が1回、入りますけど。

鈴木 ああ。

芦刈 風呂に入れなかったら、清拭があるって感じ。

鈴木 あ、じゃあ、その一・・・。

芦刈 ま、まあ、その一、ベッドがちょっと汚れたとか。

鈴木 はい。

芦刈 漏れたとか、おしっこが漏れたとか。

鈴木 はい。

芦刈 そういうときは替えてくれますけど。

鈴木 はあはあはあ。

芦刈 基本的に、体、拭いたりとかはしないです。

鈴木 じゃあ、そのときぐらいしか、服は着替えないんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 ああ。

芦刈 僕は、あの一、ズボン派の、パンツはいてないので。

鈴木 はい。

芦刈 それだけなんで、ズボン毎日着替えてるなっていう。

鈴木 ああ。

芦刈 上はそのままです。

鈴木 その、ん、着るものっていうのは、なん、何でも着ること、できるんですか。

芦刈 そうですね。あまり着せにくいやつは、伸びないやつとか。気管切開してるたちは前開きがいい、うん。

鈴木 ああ。

芦刈 前開きにしてって言われますから。

鈴木 それ、その、気管切開の人は前開きにしてっていうのは、もうずっと前からそうやって言われてます？

芦刈 そうですね。

鈴木 あ、そうなんだ。

芦刈 やっぱ服着せにくいんで。

鈴木 ああ。

芦刈 頭からかぶせれないんで。

鈴木 はい。

芦刈 要は気管切開が増えたりしている。

鈴木 一回、取んなきゃ駄目ですよ。

芦刈 そうそう、だから前開きでボタン外してっていう。

鈴木 ああ。す、それは結構、前、もう昔からそうってますか。

芦刈 そうですね。まあ、そういう人が増えたんで。

鈴木 へえ、なるほど。

芦刈 施設で、あの、流動って人多いですし。

鈴木 ああ、そういう人が増えたっていうのはいつ頃から。なんかそういう気切の人って、やす・・・。

芦刈 いや、もう、北2の終わりをこの。

鈴木 うん。

芦刈 (#####@01:22:40)だんだん手が、職員が回らなくなって。

鈴木 なるほど。

芦刈 そのときにちょっと夜勤も、ひ、1人、増やしたかな。

鈴木 ふーん。

芦刈 全然回れなかったんで、忙し過ぎて。

鈴木 忙し過ぎてね。あの一、その、看護師さんの数ってもう一度確認したいんですけど、その、えっと、なん、なん対何ぐらいなんですか。

芦刈 えっと、日中は7対1やったかな。

鈴木 あ、それは、じゃあ、基準どおりっていうか、その一。

芦刈 そう、一応。

鈴木 ああ。

芦刈 まあ、土日は多分ゴイチとか。

鈴木 土日、ゴイチ。

芦刈 あ、違う、逆か。休みになったら増える、とか、うん、平日はゴイチ、うん、うん。

鈴木 ちなみに夜間って、夜間の時間帯って50人を何人ぐらいで見てらっしゃるんですか。

芦刈 なんか準夜帯つって4時ぐらいから、4時に(#####@01:23:42)、1時までかな。準夜帯でナースが3人、介助員が1人、で、や、や、深夜帯は(#####@01:23:54)、人たちがナース4人です。

鈴木 なるほどね。その、その数って昔からそうでしたか。その・・・。

芦刈 だからその北2のおわりの頃に手が、手が回らないっっちゃうことで増えました。

鈴木 あ、増えたんですね。

芦刈 あ、3、3人だったかな、前は。

鈴木 あ、前、3人だったんですか。

芦刈 はい。

鈴木 で、それで介助員を増やして4人にしたってことですか。

芦刈 そう、準夜帯は。

鈴木 準夜帯ね、ああ、はあ。

芦刈 で、や、深夜帯は、ナース4人にして。

鈴木 はあはあはあはあ、なるほど。

芦刈 それでも、間、休憩行くんで2人のときがあったりとか。

鈴木 はい。

芦刈 丸々4人いるわけでもない。

鈴木 ああ。

芦刈 まあ、その、容体が悪い、と、ときはもう休憩なしで。

鈴木 なるほど。

芦刈 (#####@01:24:46)。

鈴木 ふーん。夜って、見まま、見回りとかされるんですか、ナースの人は。

芦刈 見回りっていうか、あの一、みんな、あの一、自分で寝返り打てないので。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 で、体位交換必要だし。

鈴木 あ、体位交換。

芦刈 で、呼吸器の、僕とか鼻のマスクも(####@01:25:05)とか。

鈴木 はいはい。

芦刈 やったりとか、あと吸引とか。

鈴木 はい。

芦刈 で、途中でトイレしたくなったらトイレやってくれたりとか。本当は、あの、(## ##@01:25:14)で呼吸器管理をしないといけないので。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 本当、あの、ずっと座る暇もなく、ばたばたばたばた、もう。

鈴木 はい。

芦刈 コールも結構、鳴るので。

鈴木 なるほど。

芦刈 見てて、大変そうだなって、いつも思ってる。

鈴木 ああ。あの、何時ぐらいですか、その体位交換とかって。時間決まってますか。

芦刈 それは、まあ、2時間置きぐらいに。

鈴木 2時間置き。

芦刈 ぐらい。

鈴木 い、1回目は何時ですか。

芦刈 1回目は、まあ、11時ぐらいかな、回ってきて。うちの部屋来るの、まあ、12時前になます。で、あとが3時ぐらいと。うん、それで1回、2回です。(#####@01:25:56)、うん。

鈴木 その、そのときって、なんかやっぱり電気、こう、つけるわけですよね、ナースの人って。

芦刈 あ、まあ、あの一、枕元の電気をつけるときもあるし、場合によって。まあ、暗いんで、うん。まあ、つけない人もいますけど。

鈴木 す、なんかそれで起こされちゃうことってないですか。

芦刈 まあ、それはもちろんあります。

鈴木 ああ。

芦刈 毎日だから、やっぱり目が覚めたり。

鈴木 ああ。

芦刈 うん。

鈴木 やっぱり電気が明るいと、ん、も、やっぱり起きちゃいますよね。

芦刈 そう、一応カーテンとかもあるんですけど。

鈴木 うーん。

芦刈 そこまでは、うん、ま、まぶしくはないかな、うん。

鈴木 うーん。睡眠ってじゃあ、あんまり、う、ど、どうなんですか。睡眠は、とれ、取れるほうなんですか、そういう、その。

芦刈 ああ、僕はほとんど取れてないと思う。

鈴木 取れてない。

芦刈 熟睡したことはないですね。

鈴木 ああ。

芦刈 なんかマスクとか、やっぱり気になるほうなんで。

鈴木 はい。

芦刈 うん、なかなか、寝れないほう。

鈴木 うーん。そのマスク着ける前からそんな感じだったんですか。

芦刈 そうですね、あんまり慣れない感じ。

鈴木 ああ。やっぱり病院生活がそれだけ長くても、やっぱり、その、途中で来られたりとかすると、お、お、なんか十分、寝れないなって感じなんですか。

芦刈 まあ、起こされたっていうより、自分が寝れない感じです。

鈴木 ああ、自分の体質的につていうことなんですね、うーん。まあ、在宅に行って、まあ、どんな感じになるんですかね、でも。

芦刈 そうですね。

鈴木 うん、結局、介助者が常にいるような状況になるんですもんね、家だと。

芦刈 そうですね、うん。

鈴木 そ、その辺の不安とかはないですか。

芦刈 え、在宅ですか。

鈴木 ああ、在宅でなんか介助者がずっと、ひ、いらっしゃることになるわけですもんね。

芦刈 ああ、そばにずっといる。

鈴木 ええ、そばにずっといる。

芦刈 いや、いてくれたほうが安心です。

鈴木 ああ、逆に安心なんですね。

芦刈 (#####@01:28:10)にくるんで、コールをしてもなかなか。

鈴木 はいはい。

芦刈 すぐにやっぱ来れないんで。

鈴木 ああ。

芦刈 だったら(#####@01:28:17)がいつもいるので、うん。在宅だといつでも、言ったらいてくれるので、そこは逆に多分、安心して寝れるかなと。

鈴木 その、ナースコールを押して、来るまでって平均、なんじ、どれぐらいかかりますか。

芦刈 いや、すごい、時間帯にもよりますけど。

鈴木 はい。

芦刈 すごい、人にも、よ、よりますね。

鈴木 ああ。

芦刈 いわゆる、すぐ来てくれる人は来てくれるけど。

鈴木 はいはい。

芦刈 でも、どうしても来れない時間もあるので。

鈴木 はい。

芦刈 まあ、ちょっと、何分っていうのは、はっきり言えないです。

鈴木 うーん。さ、最大どのぐらい待たされたことってありますか。

芦刈 まあ、2時間ぐらいは。

鈴木 2時間？

芦刈 うん、ありますね。

鈴木 それはなんのときですか。

芦刈 多分、あの一、体交とかしてたり、た、体調悪い人が(****キタ@01:29:15)ときだと思えますけどね。

鈴木 ああ。でも2時間って大変ですね、待つのは、

芦刈 あ、途中で諦めました。

鈴木 ああ。

芦刈 もういいやって。

鈴木 あ、そうですか。

芦刈 まあ、それぐらいのときはいいんですけどね。本当にきついときは、マスクが、例えば、ずれたとか。

鈴木 はいはいはい。

芦刈 回路が抜けたとか。

鈴木 はい。

芦刈 ときが、やっぱり、すぐ来てくれないと、ちょっとまずい。

鈴木 え、それは、でも心配じゃないですか。なんか、け、結構、命に関わることだと思うんですけど。

芦刈 なんかあったら SP とか、一応モニターつけてるんで下がると思うんですけど。

鈴木 ああ。

芦刈 うん、なかなかそうならないと。

鈴木 うん。

芦刈 呼吸器が(###@01:30:02)、来れなかりするの。

鈴木 モニターがついてるんですか。

芦刈 うん、あの、指に着ける、寝るときの。

鈴木 あ。

芦刈 SP マイクのモニター。

鈴木 あ、じゃあ、それナースステーションから一応、聞こえるんですね。

芦刈 あ、全部見れます。

鈴木 あ、見れるんですね。ああ、なるほどね。まあ、でも、じゃあ、すぐ、すぐ来てくれないってのはちょっと大変だと思うんですけど。あの一、例えば褥瘡とかって、あったことってありますか。

芦刈 ああ、何回か。あの、寝ててっていうのはないですけど、なんか、あの一、座ってて。

鈴木 はい。

芦刈 玉の下のところに傷があって放置してたら。

鈴木 はい。

芦刈 穴がこっから開いたことがあります。

鈴木 そうですか。

芦刈 (#####@01:30:50)、背中にとかはないですけど。

鈴木 それは、あれですか。やっぱ看護師さんではチェックできなかったってことなんですか。

芦刈 そうですね。あんまりそこは、のぞいて見たりしないよね。

鈴木 ああ。

芦刈 そのままほったらかしちゃったんで。

鈴木 ああ。

芦刈 ちょっと痛いなと思いました。

鈴木 ああ、はあはあはあはあ、なるほどね。その、ナースさんのそのチェックっていうか、その、結構、み、見てくれてるかなと思いますか。その、体の状況とか。

芦刈 ああ、訴えがないとなかなか難しいかな。

鈴木 あ、こちら……。

芦刈 あの、風呂、風呂と、風呂とかトイレのときに、見えるとこやったら気付いてくれますけど。

鈴木 うーん。

芦刈 本人の訴えがなかなかないとね。

鈴木 見てくれない。あの、お風呂って月曜と木曜っておっしゃってましたけど、ぬ、あの、い、浴槽に入るんですか。

芦刈 あ、僕はシャワー浴。

鈴木 シャワー浴。それ、昔からそうですか。

芦刈 いや、昔は、あの一、え、エレベーターバスに入っていました。

鈴木 え、なんです？

芦刈 エレベーターバス、(****エレベーターバス@01:32:03)。

鈴木 エレベーターバス？

芦刈 あの、ストレッチャーでその浴槽のところについて、横付けして、がちやっとずらすと浴槽が上がってきて、ここまで漬かれるんだよ。

鈴木 ああ。そ、そ、それはいつ、そういうことをやってたんですか。

芦刈 (####@01:32:25)のときですね。

鈴木 でも今はもうシャワー浴に替えたんですね。

芦刈 そうです。あの一、呼吸器があるんで、僕、入れないって言われて。

鈴木 ああ。

芦刈 あと一応、なんか(****トウルイ@01:32:38)って言って、あの一、これもなんかストレッチャー(####@01:32:42)けど。

鈴木 はい。

芦刈 寝てるところがちょっと上がってきて。

鈴木 はい。

芦刈 そうするとお湯ためられて、そこでちょっと漬かるってやつなんですけど。僕、あの、

なんで、40 サイズじゃないんで、飛び出るので、体がつかえて、もうシャワー浴でいいや
っていう。シャワー浴にしてもらって。

鈴木 体はよく洗ってくれてると思いますか、ごしごしと。

芦刈 ああ、あの一、自分でうるさく言うんで。

鈴木 あ、自分で言って。

芦刈 うん。うるさがられるっての気にしないでやっています。

鈴木 ああ、じゃあ、それ言えば、ちゃんとやってくれるって感じなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 じゃあ、逆に、言わないと、なんか。

芦刈 そのまま。

鈴木 洗い、洗い残しっていうか、なんか、うん。

芦刈 あると思います。

鈴木 分かりました。ありがとうございます。ちょっと、3時くらいになりましたので、ち
よっと、きょうはこれで終了したいと思うんですけど。またちょっと、できますか、今週と
かって。

芦刈 ああ、いいですよ。

鈴木 た、例えば木曜の3時とかって可能ですか。

芦刈 あ、大丈夫です。

鈴木 あ、分かりました。じゃあ、またちょっと、お知らせしますので、すみません、なん
か、はい、よろしく願います。はい、失礼いたします。

芦刈 はい、ありがとうございます。

鈴木 はい、失礼します。

(了)